



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年9月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中！！

～ '07 神通研集会報告 ～

「災害」に対してのグループ報告

グループ報告

- ・ろう協とサークルで避難所ごとの名簿を作成
- ・ろう協主催の学習会を開催
- ・ろう協とサークルで地域の防災訓練に参加
- ・サークルで災害防災センターを見学
- ・サークルで防災訓練に参加しミニ手話講習を開催
- ・ボランティア連絡会発足
- ・防災ボランティアネットワークがあり、年1回防災訓練を行っている
- ・年2回ろう協とサークルの会議があり、消防署から講師を呼び講演をおこなった
- ・ボランティア連絡会等の活動を通してサークルの存在を認知してもらえれば良いと思う
- ・日頃からの近所付き合いが大切

<助言者のまとめ>

川崎市でおこなった防災訓練で、コミュニケーションの場面で不手際が生じていることがわかりました。

大災害が起こったときは、停電によりTVやFAXが使えなくなり情報地獄になってしまう。この期間がろう者は一番不安です。地域でろう者、サークル会員がお互いに助け合っていくことが大切。日頃からの付き合いをして気軽におしゃべりできる関係を持って欲しいと思います。

～ 定例会 ～

8/30(土) 定例会を開催しました。

毎年9月は神通研集会の月。今年の分科会「手話サークル」のテーマは、これまでも継続してきた「災害」。災害時、聴こえない人たちの不安を少しでも軽減するために、身近な存在であるサークル会員の果たす役割は大きなものとなります。

そして、もう一つのテーマ「コミュニケーション」。さまざまな人たちが集う場所では、言い方や伝え方によって力が一つになることも反発し合ってバラバラになることもあります。より良い協力体制を作っていくためのコミュニケーション方法について話し合ってみます。

【次回定例会】

10/11(土) 10:00～12:00
かながわ県民センター 12F
ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

時は金なり・・・Time is money！！

最近、しみじみと感じます。

時は金なり・・・TIME IS MONEYということ。

もうすぐ3才になる娘を見ていて、昨日は出来なかったことが、今日は出来たりして、1日の重みを感じています。

昨日と同じ今日はない！！そう思うと、帰らぬ時間を大切にしなければと痛感します。

そして願わくば「昨日より今日は貯金が減った」とか「去年より体重5キロアップ！要メタボ区域突入！」とかそういう、人生の下降線ばかりを迎えるのではなく(爆)、常にわずかでも上昇していきたい！手話単語一つでもマスターしたい！

日々上昇気流に乗っている我が娘を見ていて、私もその勢いに便乗したいと思う、今日この頃の私です(笑) By メタボン座間